

2010(H22).10.16

全国大会県予選の2回戦は東洋大牛久に46-42で勝利

10月16日(土)10:30から堀原運動公園競技場で平成22年度全国大会県予選の2回戦が行われ、日立一高は、前半36-7、後半10-35、計46-42で東洋大牛久高校を破りました。(記録をさかのぼると、単独チーム同士では、平成15年10月(県予選2回戦で8-3と勝利)以来、7年ぶりの東洋大牛久からの勝利となりました。)



前半開始3分、ラインアウトから右オープンに展開し、14番WTB1年生の今川がライン際を快走、右中間に回り込んで先制トライ！ゴールは失敗しましたが、5-0と幸先の良いスタートとなりました。

その後も6分、13分、20分、22分にトライを重ね、31-0と一方的にリードを広げ、27分には相手陣からキックで攻め込まれ、自陣ゴール前の攻防から左隅にトライを奪われ31-7とされましたが、インジュアリータイム31分には敵陣ゴール前ラックからFWがサイドを突破しトライ！36-7として前半を終了…楽勝ムードが漂います。



後半も4分に敵陣ゴール前ラインアウトを押し込み、崩されましたがラックサイドを突きNo.8山口がトライ！41-7とします。しかし、その直後から試合の流れは大きく変わります。敵陣ラインアウトから、この日CTBに入っている牛久キャプテンのフッカー関口が縦に突破しディフェンスラインの裏に抜け快走！ゴール前に迫られ、ラックを連取され最後はNo.8がトライ41-12として反撃開始！その後も甘いタックルで牛久2番、8番、15番の縦攻撃を止められず14分、18分とトライを連取され、ついに後半24分には牛久FBに独走を許し中央にトライ！ゴールも決まり41-42と逆転を喫します。おまけに後半15分過ぎには、同じ反則を繰り返したことからフランカーがシンビン(一時退場)となっており、14人での戦いとなってしまいました。

残り時間はわずか、強い日差しと25℃近い気温に体力を消耗し、万事休したかと思われましたが、ここでFWが奮起！キックオフからプレッシャーをかけて相手ゴール前に迫り、牛久のペナルティを誘い、敵陣ゴール前ラインアウト！ラインアウトモールはまたも崩されましたが、あせらずに執拗にサイド

をついて7番岡武蔵が逆転のトライ！！後半29分で46-42と再逆転し、薄氷を踏む思いで準々決勝進出が決まりました。



ここ数年、牛久との戦いは、前・後半で流れが大きく変わったり、リズムをつかんだ側が一方的に攻める半面、後手に回った側はなすすべもなく攻め込まれる、といった展開が多くなっています。

勝敗を分けたのは、3年生がやや多い日立一高の「勝ちたい！」という執念が、最後の最後に牛久を上回ったと言えますが、この日の甘いタックルはいただけません。このようなタックルでは来週の清真学園戦は、またも100点ゲーム！どころか、150点ゲームの再現になるでしょう。残り1週間、魂のこもった、芯を外さないタックルができるよう、まずはメンタルから鍛え直して欲しいと思います。

後半受け身 薄氷の勝利

日立一

○：前半の大量リードを生かせず、日立一はまさかの薄氷を踏む勝利に笑顔はなかった。後半は受け身に回り橋本晃輝監督の必は「相手に付け入るすきを与えてしまっ」と表情は厳しかった。

前半はWTB今川裕司（1年）が3トライを挙げるなど20点リード。後半も開始5分でNO8山口大輔（2年）がトライ

日立一、辛勝8強 勝田工、土浦一快勝

県予選

ラグビーの第90回全国高校大会県予選の第3日は16日、水戸市の堀原運動公園競技場で2回戦3試合を行い、日立一、勝田工、土浦一が準々決勝進出を決めた。

日立一は前半29点リードで折り返し、後半に逆転を許したが、試合終了間際に勝ち越した。勝田工は9トライを奪った。

第4日は17日、ひたちなか市の勝田高グラウンドで行う。

土浦一 44対00 高A
 茨高Aは太田一、勝田、水戸
 興、茨城東の4校
 勝田工 33対17 下妻一
 26対0
 日立一 46対42 東洋大牛久 10対35

だが、東洋大牛久に連続4トライ4ゴールの猛攻を受け、26分にはトライにゴールも決まり逆転された。前に出るディフェンスが機能しなくなり、フランカー岡武蔵（3年）は「油断、チームの弱さが出た」

何とか29分に敵陣深い左サイドのラックから「3年の意地だった」と岡がサイドを突き、勝負を決めるトライを奪った。準々決勝は清真学園に挑む。この日の反省点を纏い「前に出るラグビーをしたい」と全力プレーを誓った。

日立一 東洋大牛久 前半2分、日立一のWTB今川が先制トライを決める。堀原運動公園競技場



(2010. 10. 17 茨城新聞)